

ドイツ語学ドイツ文学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
西洋文化学特論Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	1	月曜4限
西洋文化学特論Ⅱ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	2	月曜4限
ドイツ語学特論Ⅰ	ドイツ語の詩を読む	2	NARROG HEIKO	1	木曜2限
ドイツ語学特論Ⅱ	ドイツ語の詩を読む	2	NARROG HEIKO	2	水曜2限
ドイツ文学特論Ⅰ	ルーマニア・ドイツ語文学 におけるホコーストとナチ ズム	2	藤田 恭子	1	金曜3限
ドイツ文学特論Ⅱ	ドイツ語の散文作品を読 む	2	藤田 恭子	2	金曜3限
ドイツ文化学特論Ⅰ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (10)	2	佐藤 雪野	1	火曜5限
ドイツ文化学特論Ⅱ	ドイツ(語)文化圏としての 中欧の文化と歴史 (11)	2	佐藤 雪野	2	火曜5限
ドイツ文学研究演習Ⅰ	近現代ドイツ文学講読	2	嶋崎 啓	1	金曜2限
ドイツ文学研究演習Ⅱ	近現代ドイツ文学講読	2	嶋崎 啓	2	金曜2限
ドイツ語学研究演習Ⅰ	ドイツ語・ドイツ語圏文化 講読	2	NARROG HEIKO	1	火曜2限
ドイツ語学研究演習Ⅱ	ドイツ語・ドイツ語圏文化 講読	2	NARROG HEIKO	2	火曜2限

科目名：西洋文化学特論 I

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM11401, **科目ナンバリング：**LGH-LIT628J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2・授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ

3. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1764-1765)
- 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1766-1767)
- 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1768-1770)
- 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1771-1773)
- 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1774-1776)
- 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1777-1780)
- 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1781-1784)
- 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1785-1788)
- 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1789-1792)
- 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1793-1796)
- 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1798-1801)

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

7. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：西洋文化学特論Ⅱ

曜日・講時：月曜 4 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM21402, **科目ナンバリング：**LGH-LIT629J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2・授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ

3. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1802-1803)
- 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1804-1805)
- 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1806-1808)
- 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1809-1811)
- 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1812-1814)
- 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1815-1818)
- 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1819-1822)
- 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1823-1826)
- 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1827-1830)
- 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1831-1834)
- 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1835-1838)

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

7. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：ドイツ語学特論Ⅰ

曜日・講時：木曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM13204, **科目ナンバリング：**LGH-LIT652J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語の詩を読む

2・授業の目的と概要：詩を通してドイツ語圏文学について学び、同時に詩の韻律等を活用し、ドイツ語のリズムとイントネーションについても学ぶ。同時にドイツ・リートについても学ぶ。

3. 学習の到達目標：ドイツ語の詩について基礎的に理解し、ドイツ語の発音及びリズム・イントネーションスキルを向上させる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

古典時代の 18 世紀後半から 19 世紀前半にかけて代表的なドイツ語圏の詩人の詩を読んで、その一部を暗記する。また、可能な場合、同時に作曲家による旋律に載ったバージョンも吟味する。

第 1～第 7 週 ゲーテ

第 8～第 15 週 ヘルダリン

ただし、参加者のドイツ語力や関心に合わせて異なるものを読む場合もある

5. 成績評価方法：授業参加と毎回の課題・宿題に基いて評価する

6. 教科書および参考書：授業時に指示

7. 授業時間外学習：授業時に指示。詩の暗記が求められる

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：ドイツ語学特論Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM23205, **科目ナンバリング：**LGH-LIT653J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**ドイツ語の詩を読む

2・**授業の目的と概要：**詩を通してドイツ語圏文学について学び、同時に詩の韻律等を活用し、ドイツ語のリズムとイントネーションについても学ぶ。同時にドイツ・リートについても学ぶ。

3. **学習の到達目標：**ドイツ語の詩について基礎的に理解し、ドイツ語の発音及びリズム・イントネーションスキルを向上させる

4. **授業の内容・方法と進度予定：**

1 9 世紀ロマン主義の代表的なドイツ語圏の詩人の詩を読んで、その一部を暗記する。また、可能な場合、同時に作曲家による旋律に載ったバージョンも吟味する。

第 1～第 7 週 ハイネ

第 8～第 11 週 アイヒェンドルフ

第 12～第 15 週 メーリケ

ただし、参加者のドイツ語力や関心に合わせて異なるものを読む場合もある

5. **成績評価方法：**授業参加と毎回の課題・宿題に基いて評価する

6. **教科書および参考書：**授業時に指示。詩の暗記が求められる

7. **授業時間外学習：**毎回の課題

8. **実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：ドイツ文学特論 I

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：藤田 恭子、藤田 恭子

コード：LM15303, **科目ナンバリング：**LGH-LIT630J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ルーマニア・ドイツ語文学におけるホロコーストとナチズム

2・授業の目的と概要：ドイツ語のテキストを厳密に読む。背景知識としてルーマニアにおけるナチズム受容とホロコーストの歴史を知る。

3. 学習の到達目標：ドイツ語の文学テキストを、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

ユダヤ系詩人たちおよびドイツ系作家のテキストを取り上げる。彼らの自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

第 1 回 導入

第 2 回 ルーマニアにおけるドイツ語話者の歴史

第 3 回 ルーマニアにおけるナチズム

第 4 回 ホロコーストをテーマとする詩（1）

第 5 回 ホロコーストをテーマとする詩（2）

第 6 回 ホロコーストをテーマとする詩（3）

第 7 回 自伝的エッセイ（1）

第 8 回 自伝的エッセイ（2）

第 9 回 自伝的エッセイ（3）

第 10 回 ナチズム受容をテーマとする小説（1）

第 11 回 ナチズム受容をテーマとする小説（2）

第 12 回 ナチズム受容をテーマとする小説（3）

第 13 回 二次文献（1）

第 14 回 二次文献（2）

第 15 回 まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加）

6. 教科書および参考書：プリントを配付する。

7. 授業時間外学習：事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：藤田 恭子、藤田 恭子

コード：LM25304, **科目ナンバリング：**LGH-LIT631J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. **授業題目：**ドイツ語の散文作品を読む

2. **授業の目的と概要：**散文テキストを読み、また著者の自伝的テキストや二次文献を読んで、多様な解釈の可能性を知る。

3. **学習の到達目標：**ドイツ語による散文を、その言語的時代的文脈を理解しつつ、解釈する方法を知る。

4. **授業の内容・方法と進度予定：**

2009 年度ノーベル文学賞を受賞したヘルタ・ミュラー (Herta Müller, 1953-) のテキストを取り上げる。彼女の自伝的エッセイや二次文献の一部も読む。

第 1 回 導入

第 2 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (1)

第 3 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (2)

第 4 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (3)

第 5 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (4)

第 6 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (5)

第 7 回 ヘルタ・ミュラーの小説 “ (6)

第 8 回 ヘルタ・ミュラーの小説 (7)

第 9 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (1)

第 10 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (2)

第 11 回 ヘルタ・ミュラーの自伝的エッセイ (3)

第 12 回 二次文献 (1)

第 13 回 二次文献 (2)

第 14 回 二次文献 (3)

第 15 回 まとめ

5. **成績評価方法：**平常点 (出席、授業での発言、課題の発表、議論への参加)

6. **教科書および参考書：**プリントを配付する。

7. **授業時間外学習：** 事前に配付したドイツ語テキストを予習し、読解すること。

8. **実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicates the practical business

9. **その他：**

このクラスでは Google Classroom を用いて、授業連絡などを行う。

教員の連絡先は以下の通り。kyoko.fujita.e5 アトマーク、トーホク、エーシー、ジェーピー

科目名：ドイツ文化学特論 I

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM12506, **科目ナンバリング：**LGH-LIT632J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 （10）

2・授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。
「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

- 3. 学習の到達目標：**1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. プラハの歴史
3. ボヘミアとドイツ人
4. プラハとユダヤ人
5. プラハのドイツ文学
6. レンカ・ライネロヴァーとプラハ
7. ライネロヴァーの作品講読 1
8. ライネロヴァーの作品講読 2
9. ライネロヴァーの作品講読 3
10. ライネロヴァーの作品講読 4
11. ライネロヴァーの作品講読 5
12. ライネロヴァーの作品講読 6
13. ライネロヴァーの作品講読 7
14. ライネロヴァーの作品講読 8
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

6. 教科書および参考書：テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

7. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

ドイツ語未修者で、受講希望の場合は、初回の授業時に申し出ること。

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM22505, **科目ナンバリング：**LGH-LIT633J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 （11）

2・授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

3. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. エゴン・エルヴィン・キッシュとプラハ
3. ホロコーストとプラハ
4. キッシュ作品講読 1
5. キッシュ作品講読 2
6. キッシュ作品講読 3
7. キッシュ作品講読 4
8. キッシュ作品講読 5
9. キッシュ作品講読 6
10. キッシュ作品講読 7
11. キッシュ作品講読 8
12. キッシュ作品講読 9
13. キッシュ作品講読 10
14. キッシュ作品講読 11
15. まとめ

5. 成績評価方法：平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

6. 教科書および参考書：テキストはプリント配布。

その他の参考書は授業中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅰ

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM15206, **科目ナンバリング：**LGH-LIT634J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代ドイツ文学講読

2・授業の目的と概要：近現代のドイツ語の文学作品を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。今期はペーター・ビクセル『季節』を読む。

ペーター・ビクセル（1935-）はスイスの作家で、1965 年にグルッペ 47 賞を受賞している。『季節』は次第に崩壊していく建物と体験と記憶の揺らぎを平易で即物的な文体で断片を積み重ねることによって描く小説である。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた文学作品を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。作品の内容について自分なりの解釈ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 『季節』講読 1
- 3 『季節』講読 2
- 4 『季節』講読 3
- 5 『季節』講読 4
- 6 『季節』講読 5
- 7 『季節』講読 6
- 8 『季節』講読 7
- 9 『季節』講読 8
- 10 『季節』講読 9
- 11 『季節』講読 10
- 12 『季節』講読 11
- 13 『季節』講読 12
- 14 『季節』講読 13
- 15 『季節』講読 14

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM25206, **科目ナンバリング：**LGH-LIT635J, **使用言語：**日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：近現代ドイツ文学講読

2・授業の目的と概要：近現代のドイツ語の文学作品を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。今期も前期に引き続きペーター・ビクセル『季節』を読む。
ペーター・ビクセル（1935-）はスイスの作家で、1965 年にグルッペ 47 賞を受賞している。『季節』は次第に崩壊していく建物と体験と記憶の揺らぎを平易で即物的な文体で断片を積み重ねることによって描く小説である。

3. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた文学作品を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。作品の内容について自分なりの解釈ができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 『季節』講読 1
- 3 『季節』講読 2
- 4 『季節』講読 3
- 5 『季節』講読 4
- 6 『季節』講読 5
- 7 『季節』講読 6
- 8 『季節』講読 7
- 9 『季節』講読 8
- 10 『季節』講読 9
- 11 『季節』講読 10
- 12 『季節』講読 11
- 13 『季節』講読 12
- 14 『季節』講読 13
- 15 『季節』講読 14

5. 成績評価方法：平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

6. 教科書および参考書：プリントを配布する。

7. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅰ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：1 **単位数：**2.00 単位

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM12204, **科目ナンバリング：**LGH-LIT636E, J, **使用言語：**2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読

2・授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。

2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を 3 週間当たり 1 作品（雑誌記事は 2 週間当たり 1 本）ぐらいのペースで読んでいく。

3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある

3. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。

また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は、一例である。

1. Lukas Bärfuss: Malinois
2. Lukas Bärfuss: Malinois
3. Lukas Bärfuss: Malinois
4. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
5. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Landl
6. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
7. Sebastian Guhr: Die langen Arme
8. Sebastian Guhr: Die langen Arme
9. Sebastian Guhr: Die langen Arme
10. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
11. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
12. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
13. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
14. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
15. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

5. 成績評価方法：毎回の授業参加及び課題に基づく。

6. 教科書および参考書：上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

7. 授業時間外学習：授業の準備、宿題（課題）

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：2 **単位数：**2.00 単位

担当教員：NARROG HEIKO

コード：LM22206, **科目ナンバリング：**LGH-LIT637E, J, **使用言語：**ドイツ語、日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ドイツ語・ドイツ語圏文化講読

2・授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。

2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を 3 週間当たり 1 作品（雑誌記事は 2 週間当たり 1 本）ぐらいのペースで読んでいく。

3) 参加者のドイツ語力や関心に合わせて文学作品や雑誌記事の代わりに中・上級の教材を使うこともある

3. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。

また、聞き取り・会話力を含め、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

以下は一例である。

1. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
2. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
3. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
4. Gerhard Falkner: Schorfheide
5. Gerhard Falkner: Schorfheide
6. Gerhard Falkner: Schorfheide
7. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
8. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
9. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
10. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
11. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
12. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
13. Norbert Scheuer: Winterbienen
14. Norbert Scheuer: Winterbienen
15. Norbert Scheuer: Winterbienen

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。クラスコードはシラバス入力時点では未定で学期初めに決まります。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

5. 成績評価方法：課題（原則として毎回求められる）及び授業参加に基づいて。

6. 教科書および参考書：上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする

7. 授業時間外学習：授業の準備、宿題

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business (該当しない)

9. その他：